

各論の再編成案に対するご意見について（野尻委員より）

1. 日本の学術の展望

・・・p4～

2. 多様性と包摂性のある社会へ——公正と共生の実現

・・・p5～

○執筆委員：★三成幹①、宮崎①、徳田③、遠藤①、野尻③

○コンテンツ：

2-1 個人の尊厳——「だれ一人取り残さない」(SDGs2030 アジェンダ)

- (1) 誰もが自分らしく生きられる未来への道筋（遠藤委員）
- (2) 国際社会と人権——個人の尊厳（国際人権法・憲法の専門家など）
- (3) ビジネス・企業と人権——社会的責任の分かち合い方

2-2 公正な社会へ——ジェンダー平等と差別解消

- (1) ジェンダー平等の達成（三成幹事）
- (2) 暴力の廃絶——女性・子どもの安心・安全へ（三成幹事）
- (3) ジェンダーバイアス 解消に向けた教育（野尻委員）教育の語がここにしか出てきませんが、ジェンダーバイアスについて教育以外の問題も多いと思います。SOGI, 障害者、外国人についても教育の重要性はあるので、(3)は教育の語は外していただいて、(6) に教育とつけるのはいかがでしょうか。(6)も私が書くので結構です。

(4) SOGI 差別の解消とダイバーシティの実現（三成幹事）

(5) 障がい者差別の解消とのエンパワーメント

(6) 公正な社会を作る教育

2-3 包摂性ある社会へ——共生の実現

- (1) 多様性・共生・複線型の人生：柔軟な社会、柔軟な個人へ（宮崎委員）
- (2) 外部からやって来る人々との 幸福な共生社会の創造（遠藤委員） [外部は外国人以外、例えば都会から地方への移動も含んでいるのでしょうか。次の多文化共生との違いはなんのでしょうか。]
- (3) 多文化共生と包摂社会（宮崎委員）
- (4) 多様な人々の共生社会をサポートする情報技術（徳田委員）

3. 持続發展的(な社会)

・・・p9～

○執筆委員：★遠藤①、渡辺副③、石川②、三成幹①、町村①、野尻③

○コンテンツ：

3-1 少子高齢化・人口縮小

- (1) 「多様な生き方」と「人口縮小」のパラドックスを解消する施策を（遠藤委員）
- (2) 多様な人生後半の生物学的基盤（石川委員）
- (3) 長寿社会への対応：高齢者の生存保障——年金・介護（社会福祉の専門家）
- (4) 若者にのしかかる負担の解消

3-2 貧困と格差の克服

- (1) 「格差社会」の克服と「ディーセント・ワーク」の実現（三成幹事）
- (2) 重なり合う地域格差に取り組む（町村委員）
- (3) グローバル経済の展開と日本の課題（経済委員会）

3-3 未来に向けた社会正義の実現プロセス

- (1) 持続可能性の経済・政治的条件（経済・政治の委員）
- (2) 正義実現に向けた社会の自己解決力を高める（町村委員）

(3) 平和と人権保障(町村委員)

(4) 変化するアジアの中の日本(政治・地域研究 委員)

3-4 持続発展のための教育

(1) 教育に関し総論的内容

(2) 労働力不足を補う外国人を受け入れるだけでなく、むしろ、グローバル化を牽引する人材の育成の観点から、特に留学生を中心として指導的地位になり得る若者を中心に人材育成の推進(渡辺副委員長)

(3) 優秀な研究者の受け入れ、定着、ダイバーシティの拡大(主にジェンダーを強調)による産業の活性化と学術研究のさらなる発展とそのため魅力ある環境(野尻委員)できるだけ社会公平性や包括性が重要という観点で2にポイントして一貫性を出したいと思っていますが、それでよろしいでしょうか。

4. 文化と学術

言語

文学

芸術・芸能

博物館・美術館

文化財と歴史

スポーツ

食文化

娯楽・エンターテインメント

自然

文系の話だけになっていて理系としては少し寂しいような感じがしています。科学博物館や、自然の観察等で仲間に入れていただくわけにはいかないでしょうか。

単に鑑賞するという立場ではなく、能動的に参加するという観点で、学術活動との交流をかけると良いと思います。歴史や自然観察は一般と学術の交流が活発な分野と思っています。

5. 医療の未来社会

・・・p18～

○執筆委員：★石川②、平井②、武田②、佐治②

○コンテンツ：

(1) 疾患の素過程の理解

1) ゲノム医療の10年後(菅野純夫連携会員)

2) 最先端生命科学と医療、そして「Human Biology」(武田委員)

(2) 人生後半生をどのように理解するか

1) 老化の診断法(佐治委員)

2) 認知症—共生と予防—(寶金清博会員)

(3) 高齢者の内的意識

1) 高齢者の意識(平井委員)

2) 看護学分科会における議論

3) 高齢者の内的世界への介入：大学の未来像、その役割と「高齢者学習」(武田委員)

(4) 基礎研究の展望(神経科学分野)

1) 記憶学習メカニズムの理解と応用(岡部繁男会員)

2) 体内時計と睡眠のメカニズムの理解と応用～リズム研究者の視点から～(深田吉孝会員)

ITの医療お役用のようなものは色々出ていたと思うのですが、ここには必要ないでしょうか。

6. 知識集約社会と情報

・・・p25～

○執筆委員：★徳田③、佐藤①、大野③、高橋③、野尻③

○コンテンツ：

(1) 国民ひとりひとりの活力を向上し、若者のあらゆる興味に応じて、学术界や産業界においても新しい胎動に結び付けたりできる様々なデータと情報を自由に、柔軟に活用できるシステムの構築(高橋委員)

(2) 大学のあり方、もう少し具体的に

(他の委員の先生がたへ)

研究発信に関してオープンアクセスへの対応を急ぐ必要があることも書き込みたいですがいかがでしょうか。

基礎的、学術的に正確な知識の発信(特にイメージが世間で先行しているもの 最近だと AI、国際、先進的な医療等など)について、正しい知識を伝える意義-1 にポイントすることで学術の意義を強調と

リカレント教育 より複雑で高度な判断が要求される社会

学会の発信—シンポジウムの中継とか、web 発信、学協会との連携の強化(野尻委員)

他にもあると思いますので、先行事例等項目いただけるといいのではないかと思います。

(3) サイバーセキュリティと安全保障(徳田委員)

() AI、ロボットの進化の影響 ()

7. 国土のすがた

・・・p29～

○執筆委員：★米田③、丹下②、澁澤②

○コンテンツ：

(1) 人口減少社会における国土利用のあり方(米田委員)

(2) 農業・農村・農産物の展望(澁澤委員・小田切徳美会員)

(3) 森林環境と林業の展望(丹下委員)

(4) 海洋環境と水産資源管理の展望(古谷研連携会員、和田章連携会員)

(5) 災害に強靱な国土をめざして(澁澤委員、丹下委員、米田委員)

(6) 防災減災と日本学会の役割(米田委員)

() 野生動物等の管理+ α (山極委員長 P or ?)

8. エネルギー・環境問題

・・・p40～

○執筆委員：★渡辺副③、鈴置保雄会員、若手アカデミー

○コンテンツ：

(1) 若手アカデミーからの問題提起

(2)

1) 長期的・世界的視野に立った気候変動・エネルギー政策(3E+S、パリ協定など)

2) 持続的なエネルギーインフラの構築・維持に関する政策

3) エネルギー・環境分野の科学・技術(エネルギー・環境イノベーション戦略などを含む)

4) 社会の変容とエネルギー需要(デジタル化の進展による大幅なエネルギー需要削減の可能性)

5) エネルギー・環境教育(総合性、リスク認知、情報リテラシーなど)

9. 日本学会の世界的な役割

・・・p42～

○執筆委員：★武内幹②、丹下②、澁澤②、渡辺副③、米田③、野尻③

○コンテンツ:

- (1) 世界の学术界の発展と日本学术会议の役割—国際学术会议の意義と日本学术会议の果たすべき役割を中心に(武内幹事、新福洋子特任連携会員)
- (2) 持続可能な開発目標(SDGs)の国際展開に対する学术界の貢献と日本学术会议の役割—科学が生み出すイノベーションを中心に(渡辺副委員長)
- (3) 学术研究の国際ネットワークと 地球規模課題の解決(8の環境との切り分けは?) に向けた研究協力における日本の学术の役割(IPCC、IPBES、Future Earthを含む)(野尻委員)
- (4) 環境・防災を中心とした国際研究ネットワークに果たす日本の学术の役割—アジア・太平洋地域を中心に(丹下委員・澁澤委員・米田委員)
- (5) 国際政治フォーラムにおける学术界の役割と日本学术会议の貢献—G7アカデミックサミット、サイエンス20(S20)への貢献を中心に(武内幹事)

10. 最後に学問、学术会议、大学の意義とかに戻った議論をしてほしい。(要望)